

羅針盤

KANSAI GAIDAI KYOSHOKU JOURNAL

教職を目指す学生・卒業生のために

COMPASS

第110号 2015.9.20(日) 発行

関西外国語大学
教職教育センター

SCET+

教員採用試験

1次合格者数 75名 ※HP 参照

過去 **最高記録** 更新

教職教育センター所長 角野茂樹

暑さも和らぎ、少しずつ過ごしやすくなり、秋学期のスタートとともにICCも活気づいていきます。今朝も学生と警備員さんの「おはようございます。」の元気な挨拶が聞こえてきます。

教員採用試験の2次選考も後半の大詰めに入り、最終合格の発表も間近になってきました。ふり返りますと、今年の2月のはじめ、学生たちが自主ゼミをスタートさせました。ICCの2階の教室を借り、二つのグループが一般教養・教職教養・時事問題に取り組んでいました。これらの取組の輪が広がり、今年度も4月から、中宮・学研キャンパスで「夜スペシャル」「サイスペ」をスタートさせ、そして、学生は夜遅くまで図書館で自主勉強を積み重ねてきました。

8月の初旬に1次合格の発表があり、多くの学生がそれを突破し、益明けから始まる2次選考にむけて英語討論や模擬授業、個人面接の取組を強化し、全国各地で2次選考突破に向けて奮闘しています。

学生たちは、一つひとつの山を乗り越え、確実に成長し、社会人として、教師として必要な資質・能力を身につけてきました。随分とたくましくなりました。

一人ひとりの学生が、自分らしく教育への愛情と使命感をもち、将来の自己実現にむけて着実に歩み始めることを期待しています。

〈参考〉平成 28 年度 教員採用試験 1 次合格者数(在学生)集計

(H27.9.15 現在)

平成 28 年度公立学校教員採用選考テスト 1 次選考で、4 年生および科目等履修生の合計合格者数がのべ 113 名（※実人数 75 名）で過去最高記録を更新したことがわかりました。

中宮キャンパス・学研都市キャンパスの多くの皆さんの努力が報われた結果です！

この勢いで多くの皆さんが 2 次試験を突破することを期待します！！

平成 27 年度教員採用試験

Jump Up !!

平成 28 年度教員採用試験

4 年生

のべ 59 名

実人数 39 名

のべ 90 名

実人数 60 名

科目等履修生

のべ 8 名

実人数 6 名

科目等履修生

のべ 23 名

実人数 15 名

今年度教員採用試験の合格状況（都道府県別）は以下となります。

4 年生
中学校・高等学校教諭（英語）
85 名（※実人数 57 名）
昨年度 57 名（※実人数 38 名）

都道府県	合格者数	都道府県	合格者数
大阪府	26 名	滋賀県	1 名
千葉県	17 名	三重県	1 名
奈良県	7 名	札幌市	1 名
東京都	7 名	富山県	1 名
神奈川県	5 名	岐阜県	1 名
愛知県	4 名	岡山県	1 名
静岡県	3 名	香川県	1 名
兵庫県	3 名	島根県	1 名
広島県	2 名	長崎県	1 名
豊能地区	1 名	熊本県	1 名

4 年生
小学校教諭
5 名（※実人数 3 名）
昨年度 2 名（※実人数 1 名）

都道府県	合格者数
大阪府	3 名
愛知県	1 名
広島県	1 名

科目等履修生*
中学校・高等学校教諭（英語）
23 名（※実人数 15 名）
昨年度 8 名（※実人数 6 名）

都道府県	合格者数
大阪府	10 名
東京都	4 名
奈良県	2 名
三重県	2 名
岡山県	2 名
兵庫県	1 名
徳島県	1 名
香川県	1 名

【1次試験の好調を踏まえて】

～新しい時代の確立と新たな進化の予感～

今夏も教採の2次試験対策が質量ともに発展と充実がありました。一部を除いて2次(最終)試験がほぼ終了しました。早くも最終試験合格の朗報が香川県(3名)から届きました。

本学の新しい時代の新しい息吹を実感します。というのは気候変動の影響か今年も連続猛暑日の記録が塗り替えられましたが、それに呼応するかのように本年の教採1次試験現役合格者数の記録更新です。この結果は本学 Web サイトで掲載済みでみなさんにご存知だろうと思いますが、113名という多数の新記録です。受験地により堺市や福井県のように1・2次の区別なく一気に最終合否という例外的な選考方法をとるところがあり、最終合格者はさらに増加の可能性が期待できます。それだけに従来にない多数の1次合格者が2次受験対策に臨みました。おかげで例年通り大学の完全夏季休暇返上の受験対策にこれまでと比較できないぐらいの多人数が連日酷暑に負けず参加して熱気がこもり、教職教育センターも嬉しく対応できました。

学研都市キャンパスは1次試験パスの朗報で連戦連勝が続き喜びも一入でした。中宮キャンパスと合同で対策勉強に励みましたが、お互いに大きな刺激となり切磋琢磨ができたようです。今年の“好調の秘訣”は、もちろん基本的資質として英語力(実践力)の向上はベースとして、やはり“先生になりたい”という“ひたすら”な姿勢の強さでしょうか。猛暑に耐え、弱音など吐けない協働の闘志が素晴らしいチームワークを育みました。従来から本学の教職を目指す学生たちの気風というか特性が、ともに歩む者が決して自分勝手に行動するのではなく、互を励ましながらか、喜びを分かち合える関係に定着してきています。面接練習や、模擬授業の取り組みにおいても、是は是として肯定評価と同時に課題を上手に厳しく指摘し合える真摯な人間関係が培われています。

本学の教職を目指す学生気質が一定の気風を醸し出し、既に伝統として成長、発展し続けています。時代が変わろうが、教職のスタッフが変わってもこの良き伝統に加え、教職への使命や熱意は益々進化充実してきています。あとは学生のみなさんが、息の絶えない“ひたすら”な前向きな心と行動にかかっています。

最終結果の朗報を期待し、学生たち同士も教職教育センタースタッフも、ともに喜びを分かち合える“ひたすら”な気持ちには揺るぎないことを確信しています。(文責：岡澤潤次)

合格者からのメッセージ

すでに香川県については2次試験の合格発表がありました。早速、合格者からのメッセージをいただきましたので、掲載します。

【合格体験記】

山下 愛さん 香川県 中学校 英語科 合格

外国語学部英米語学科 平成 27 年 3 月卒業
(科目等履修生)

「たくさんの人に支えられて」

はじめまして、こんにちは。この度、香川県の教員採用試験を受験し、合格をいただきました。まずは、様々なアドバイスやご指導を下された先生方、一緒に勉強をした仲間から感謝をしたいと思います。本当にありがとうございました。

ここでは、教員採用試験に臨むにあたり、私が大切にしてきたことを3点述べたいと思います。

1つ目は、ボランティアです。実は、私自身教師になろうと決意できたのは、4回生の時に参加した小学校でのボランティア(いきいき事業)でのことです。私は、3回生の春学期から1年間、アメリカに交換留学しました。そのため、教員免許を取得するためには卒業後、科目等履修生になる必要がありました。当時、教師を目指してもう一年勉強するか、それとも就職するかとても迷いました。周りは就職する友達が多い中、科目等履修生になることはとても不安でした。しかし、このいきいき事業のボランティアで子どもと実際に触れ合ううちに、教師になりたいと強く思うことができました。ボランティア活動は、教員採用試験の面接で強みになっただけでなく、教師を志す後押しになりました。また、試験勉強でくじけそうになった時、自分の糧になったと思います。教師になるか迷っている、そういう方も一度子どもと実際に触れ合うことをお勧めします。

2つ目は、英語力を鍛えることです。私は教員採用試験の勉強を始める時期が遅く、一般教養や教職教養の結果はあまりよくなかったです。しかし、専門科目の英語の試験が、TOEICの点数により免除されたため、他の筆記の試験をカバーできたと思います。なにより、教採直前に英語の試験以外の対策に集中できた事は、精神面でも大きかったです。これから教採を受けられる方は、日程が先で中々モチベーションを上げられないかもしれませんが、英語の勉強なら今日からできると思います。

最後に教採を臨むにあたって、最も大切だと思ったことは、人とのつながりです。私は本当にたくさんの人に支えられて合格することができました。授業や夜スベ、ボランティアなどお世話になった先生方や仲間には、自分の進路に迷った時、そしてその先の教採で何度も助けて頂きました。また仲間とは、切磋琢磨しながらお互いを高める合うことができました。皆さんにも様々な事に挑戦して、人との出会いを大切にしていっていただければと思います。

これから教員採用試験を受ける方、また教師になるか迷っている方に私の文章がすこしでも励みになればと思います。心から応援しています。私もこれからの新たな夢に向かって頑張ります。

シリーズ⑩「心の窓を少し開いて！」

【授業力】

今、教育界は大きな変化の時代を迎えている。団塊世代の教職員の大量退職と若手教員の大量採用による人事の入れ替わりである。世代が急激に変わることは「学校文化」の変化をもたらす。新しい人材の力は、学校を活性化させるが、「今までのよき伝統」が継承されずに学校組織が弱体化する危険を孕む。教科指導には教科書があるが、子ども理解や学年・学級集団づくりなど、人間関係におけるコミュニケーション力の向上はマニュアルがない。

先日、教職年数 30 年のベテラン教師の授業を観た。学ぶところがたくさんあった。

第1は、子ども理解力の深さだ。学級の子どもと担任との信頼関係がある。休み時間や放課後などに子どもの様子をつかんでいることが伺える。

第2は、子どもの間違いを「宝」にしていることである。授業中に答えを間違ったり、作業を失敗しても、それを冷やかしたり、嫌みを言う子どもはいない。学級に間違いから学びを深め合う仲間づくりができています。

第3は、「これから勉強を始めます」「はい」など、チャイムで始まりチャイムで終わる学習規律が守られている。また、授業中、子どもへの的確な指示がある。例えば、「プリントに名前の書いた人は、顔を上げて待っていてください」と、子どもに学習の見通しを与えて安心させることなどである。他にも体験活動やグループ討議など指導方法に工夫が見られる。

第4は、タイムリーな値打ち付けがある。「いい姿勢の人が増えてきましたね」など、子どもたちは先生から良く評価されると背筋が伸びる。

第5は、教室の学習環境がきちり、きれいに、すっきりしていることである。絵や習字などの掲示物が整然とはられ、廊下の傘立てや雑巾が揃っている。美しい教室と先生の笑顔は子どもを落ち着かせる。

第6は、学習の振りかえりがある。「まちがったけど、楽しかった」「また、やりたい」という意見が子どもから出た。

そして、授業後の余韻も大事だ。

「先生、早く次の勉強やりたいです」の声は、授業者への最大の褒め言葉だ。

編集後記——教職教育センターより——

秋分の日をはさんで前後3日間をお彼岸といいます。

お彼岸に供え物として作られる「ぼたもち」と「おはぎ」の違いが話題となることがありますが、同じものであり食べる時期の違いで呼び方が違います。呼び名の違いは、彼岸の頃に咲く牡丹（春）と萩（秋）に由来します。

「暑さ寒さも彼岸まで」

最近、めっきりと涼しくなり、食欲、勉強と何かと集中できる時期となりました。

9月、10月と続々と教員採用試験の結果が発表されてきます。皆さんの悲願が達成され、実りの秋となることを祈ります。